

第31回ポリマー材料フォーラムポスター賞選考報告

31PMF 運営委員 植草貴行

2022年のポリマー材料フォーラムは、11月15日、11月16日の2日間にわたり開催されました。オンライン開催、会場開催の両面を想定して準備を続けていましたが、COVID-19の感染者数を元に運営委員会が再三協議した結果、3年振りの会場開催に踏み切りました。発表申し込み時点の6月は、オンライン、会場いずれの開催方式もあり得る中でしたが、195件の発表があり、盛況に終えることができました。本誌面をお借りして発表者、参加者の方々に厚く感謝申し上げます。会期中は各発表に対して数多くの方に聴講いただき、また感染リスクに配慮したためか昼の休憩時間にも聴講者が途切れずに、活発な議論が各所で繰り広げられているのを目にすることができました。

当日はテーマごとの4セッション(Aセッション：ライフサイエンス・環境材料、Bセッション：電気・光・情報・エネルギー関連材料、Cセッション：高性能・高機能材料、Dセッション：ポリマー材料の設計・合成・加工・解析)に分かれて発表いただきました。セッションごとに、下記の基準および方法により、16件の優秀発表賞(ポスター賞)を選出しました。

[審査対象] 全発表のうち、先行希望のあった146件のポスター発表を対象とする。

[審査員] セッションごとに、運営委員で構成された審査員からなる審査団を結成して審査を行う。

[選考基準] ①発表内容：新しい材料および技術としての可能性を見いだした、あるいは予見させる高分子材料および関連技術である。②プレゼンテーション：質疑に対して適切な応答、ディスカッションができる。③ポスターの論理性・ビジュアル性：一見して発表の内容が理解できるような構成、ならびに人を引き付ける特徴的・魅力的なポスターである。

[審査方法] 上記基準に基づき、一つのポスター発表に対して各担当セッションの複数名の審査員が発表を聴講し、質疑応答を通じて採点することで優秀発表を選定し、点数化して審査団長に報告する。

- Aセッション：フランジカルボン酸系バイオマスポリエステルの開発と応用 (三菱ケミカル) 田中 俊資
公開文献データを活用したケミカルズ・インフォマティクス(CI) ツールで探索したバイオ由来ポリ乳酸樹脂用添加剤の効果実証 (日立製作所) 坪内 繁貴
エレクトロスピンニング法を用いたペンギンの羽根を模倣した耐水素材の作製 (名工大院工) 川崎 涼介
高性能逆浸透膜の開発 (東レ) 三井 伸也
- Bセッション：トロパンアルカロイドの高選択的検出を指向した分子鑄型ポリマー修飾型高分子トランジスタセンサの開発 (東大生研) 佐々木由比
イオン伝導性と力学特性を両立した共重合脂肪族ポリカーボネート型高分子電解質の開発 (帝人) 石井 修人
- Cセッション：ゲル微粒子を積層化したコロイドゲルブロックの構築と粘着性の制御 (慶應大院理工) 井野 翔太
ポリマーブラシ界面の動的濡れ及び流体挙動の可視化とその理解 (京大院工) 玉本 健
スーパーエンジニアリングプラスチックの改質を目的とした高耐熱樹脂相溶剤の開発 (帝人) 添田 淳史
複合紡糸技術“NANODESIGN”による高機能テキスタイルの開発 (東レ) 増田 正人
ポリエチレンアミンとポリエチレングリコールジアクリレートとのマイケル付加反応で合成した多孔質高分子のクリチャーセンフィルト効果による発色 (芝浦工大院理工) 中井利紗子
- Dセッション：ホスト分子修飾ポリジメチルシロキサン材料の力学特性評価 (阪大院理) 吉田 大地
成形性と耐熱性に優れた熱可塑性ポリイミド「サープリム」の開発 (三菱ガス化学) 酒井 敦史
新規β晶核剤によるポリプロピレンの高性能化 (ADEKA) 正井 省吾
Hansen溶解度パラメータを用いた樹脂中におけるフィラー分散性の検出 (富士電機) 保坂 伊吹



田中 俊資



坪内 繁貴



川崎 涼介



三井 伸也



佐々木由比



石井 修人



井野 翔太



玉本 健



添田 淳史



増田 正人



中井利紗子



吉田 大地



酒井 敦史



正井 省吾



保坂 伊吹